

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 21 年度

事業所番号	2771300288		
法人名	医療法人 河崎病院		
事業所名	グループホームひまわり河崎		
所在地	大阪府貝塚市水間183		
自己評価作成日	平成22年1月7日	評価結果市町村受理日	平成 22年 3月 4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2771300288&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 22年 1月 29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵まれた自然環境のもとで生活しているため、ゆったりした雰囲気です。また、ホールがアーチ状になっているため、光を取り込みやすく明るい雰囲気を保つことができます。若いスタッフだけでなく利用者様と年の近いスタッフもいるので気兼ねすることなく安心して生活できます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が経営するグループホームで、敷地内のリハビリ病棟の2階にあります。外出時には病院の待合で顔見知りの方とあいさつや話をすることもあり、馴染みの関係作りができています。また、玄関やエレベーターは開放しており、エレベーターで1階に下りた時などは病院と連携を図り、連絡体制も整えて見守りをしています。ホームの理念を職員が理解し、家庭的な雰囲気です。職員と利用者が同じ台所に立ち、自分ができることを精一杯行っている利用者や、それをさりげなく支援している職員の間で、お互いが感謝し、支え合いながら張りのある生活を送っています。職員の異動もほとんどなく、意見や気づきを積極的に話し合い、チームワークを保つことで利用者の日々のケアにも活かしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	意義や役割を十分理解し、恵まれた地域環境のもとで理念を作っており、日頃から口頭にて明確に助言及び指示を的確に行い、実践している	「利用者様に家庭的な環境と、安心と尊厳のある生活を送っていただくため、利用者様の残された能力の活用・維持を図り、楽しく、充実した生活が営まれるよう努力をいたします」といった内容を理念とし、玄関入り口のいつでも目に着くところに掲げています。職員は理念の内容を理解し、地域の中で継続して暮らしていけるような支援を心がけています。内部研修や月1回のカンファレンスの際にもその内容に触れ、職員とも共有し実践に活かしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	戸外散歩時に挨拶を交わしたり、地域の行事に参加するように努め、ボランティアの方々にも来ていただいている	歌や踊り、三味線などのボランティアが月2回ホームに訪問しています。利用者も外部の方との交流でいつもとは違った表情を見せ、訪問を楽しみにしています。散歩の途中や病院の待合で休憩していると顔見知りの近所の方とあいさつを交わしたり、話を楽しんだりすることもあります。系列病院が主催するお祭りには、利用者も毎年参加し、地域の方とも交流しています。地区の公民館祭にも参加しています。	地域へ出かけて行く機会を多く作り、交流を重ねることで、関係作りを深め、近所の方も訪ねやすいホーム作りが期待されます。また、母体である病院の協力を得ながら、地域も参加できる勉強会の開催を行い、認知症の方への理解が深まるよう努めることが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	活かせてない。今後、民生委員と協力し、地域の人々にも理解していただけるように、勉強会などの開催をしていきたい		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	相談し、話し合い、そこからでた意見を実践し、ケアに活かすようにしている	会議の参加者は、市職員、地域包括支援センターの職員、民生委員、利用者、家族、ホームの職員が参加し、2ヶ月に1度定期的実施されています。会議の規程も設けています。ホームの課題として地域の交流が少なく、外部との接触が少ないことを挙げ、今後は老人会との交流を進めていくことなどが検討されるようになりました。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から電話で相談し、協力し合えるようにしている	事故報告書、外部評価の結果報告はその都度行っています。わからないことや相談ごとがある場合は、すぐに電話で聞くなど話しやすい関係ができています。地域との交流を図るため、保育所などの慰問先の情報提供や協力要請をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解しており、身体拘束を極力しないようにケアを行っている	ホームの玄関、外へつながるエレベーターは常時開放しています。外出しようとする利用者にも、無理に制止するのではなく、安全を確認しながら見守っていく体制を作っています。1階の病院受付付近では、患者や職員の顔見知りがあり、すぐに連絡をもらえるよう見守りの連携ができています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	細心の注意を払っており、防止と発見に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、必要な方がいないため、活用していないが、必要に応じて活用できるように、研修など学べる機会を作りたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて納得されるまで、説明している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付簿、ご意見箱を設置しており、反映できるように努めている</p>	<p>意見箱は玄関入り口に設置していますが、積極的な意見はほとんどありません。しかし、家族の訪問時には利用者の生活状況報告をきっかけに話しやすい雰囲気を作り、意見など表せる機会を作っています。自宅で行っていたケアの方法や手順を継続してほしいという家族からの希望を聞き、職員とも相談しながらできる限りのことは受け入れケアに反映している事例があります。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日頃から、職員の話聞き、的確な判断による助言を行っている</p>	<p>職員が思ったことや意見等を自由に発言し、その内容について職員間で話し合っています。また介護主任はその内容を的確に判断し、助言しながら日々利用者のサービスの質の向上につなげています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>個々に応じて向上心を持てるように、条件の整備に努めている</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて、研修に参加し、活かせるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	訪問は、しているがネットワーク作りや勉強会などは、行ってない。今後、同業者との勉強会、交流会の開催を検討していく		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	世間話をしながら、さりげなく聴けるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や面会時に時間をかけて聴くように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族から話を聴き、そのとき必要なことを見極め対応するよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事やレクリエーション、コミュニケーション等にて、支えあう関係を築けるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事に参加していただけるように促し、共に支えていける関係を築くよう努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人に協力していただき支援している	家族に協力をしてもらい、利用者の実家や墓参りに行くこともあります。昔の友人が面会に来ることもあり、継続的な交流ができるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	十分把握しており、レクリエーションや談話にスタッフが間に入り、支え合えるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話や手紙にて関係を断ち切らないよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本情報シートやアセスメントにて把握に努め、必要に応じて検討している	利用者や家族の意向は、聞き取った情報を基本情報やアセスメントシートに記入し把握しています。職員からの新しい情報もその都度追加しています。食事に偏りがある利用者にはメニュー内容を栄養士と相談し、利用者にあつた食事提供を支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報、日常の関わりの中で知り得た情報を把握するよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録やケアプラン等にて把握するよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	カンファレンスを行い、介護計画を作成しているが、本人、家族との話し合いは、少ない	介護計画書は職員が常に見えるところに置き、必要時確認できるようにしています。職員は、介護計画の内容を理解し実践しています。2週間に1回は、介護計画書の内容について介護支援専門員から確認があり、現場の職員は気づいたことや意見を伝え、介護計画の見直しにも反映しています。本人、家族の意向もできるだけ聞き、一緒に考えて作成しています。	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	個人記録しており、支援経過記録を記入し、カンファレンス時や日頃から意見交換をし、見直しに活かしている		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	状況に応じて支援できるようにしている		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	民生委員やボランティアの方々に来ていただき、楽しむことができるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があれば情報交換を行い、家族の協力のもと、かかりつけ医を受診できるようにしている	緊急時や夜間は併設病院に連絡し、看護師の指示を仰いでいます。必要時には駆けつけてくれる体制作りができています。2週間に1回は病院に通院し定期的な受診支援を行っています。受診状況は記録に残し、家族にも連絡し報告しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、日頃より相談しながら健康管理、医療の活用をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	担当医と密にコミュニケーションを図り、早期退院できるように努め、日頃より病院関係者との関係づくりを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>面会時や受診時に話し合うようにしている</p>	<p>看取りについては、今のところ病院と併設ということもあり、ホームでの看取りはしていません。ホームとしての基本的指針を定めており、入居前には本人、家族に説明し了解を得て入居を決めてもらっています。重度化や終末期については、本人や家族が主治医と話し合う機会を持っています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルを作成し、訓練もしている</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>併設の病院との緊急連絡体制を整えている</p>	<p>年2回、ホーム内で避難訓練を行い、避難経路の確認や緊急時、病院の職員への応援要請などの対応確認をしています。消火器はホームに2か所設置し、定期的に点検しています。災害時の備蓄については準備できていない状況です。</p>	<p>年1回は、消防署の協力を得て訓練を実施することが望まれます。日頃から災害時に備え、備蓄を2～3日分は準備することが期待されます。また、地域の方との交流を深め、災害時の協力体制を築いてはいかがでしょうか。老人会、青年団への声かけ、または地域の防災訓練への参加なども検討されてはいかがでしょうか。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より留意している	普段から、利用者への言葉遣いには気を配り、職員同士でも言葉かけや対応が気になった場合、注意し合う等しています。プライバシー保護のマニュアルも備えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	短い言葉を使い、簡単に希望を表せられるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムに配慮し、本人のペースで行えるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば、支援できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には、食事作りや片付けなどを行っていただいている。困難な方には、出来ることを見つけ行ってもらうようにしている	食材は併設病院の厨房で準備されており、そこまで利用者と一緒に食材を取りに行っています。利用者も職員と同じ台所に立ち、食事作りから片付けまで一緒に行い、生き生きとした表情で楽しく行っています。利用者の状況に合わせて刻み食やおかゆを用意し、介助が必要な利用者には職員が付き、利用者のペースに合わせて楽しく食事ができるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に応じて支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがいや歯磨きで対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の誘導など、一人一人の排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮しながら、トイレでの排泄ができるよう支援している	利用者一人ひとりの排泄習慣やパターンをアセスメントシートや介護計画に載せ、定期誘導や早めの声かけなど自立に向けた支援ができるよう職員間での共有ができています。日々の排泄チェック表の記入をしています。失禁時、他の利用者に気づかれないよう誘導し、プライバシーに配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況のチェックを行い、水分補給に気を配り、個別で対応するようにしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に応じて入浴できるようにしている	週に4回入浴日を設けていますが、希望があれば毎日でも入浴することができます。半数の方が週4回入浴しています。入浴嫌いの利用者もいますが、職員の声かけや誘導で定期的に入浴できています。また気の合う者同士と一緒に入浴することで、利用者同士で誘い合い楽しく入浴できる工夫もしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて、昼寝をして急速していただいたり、日中ホールで過ごすことで夜間、安眠できるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋にて確認、理解しており、口頭やケアチェック表にて服薬確認をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に応じて、家事などの役割を持っていただき、気分転換できるように支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外散歩にて戸外に出かけるようにしているが少ない。家族に協力してもらい外出できるようにしている	利用者の外出希望も少なく、日常的な外出の機会は減っていますが、できる限り声かけを行い、併設病院の周りなどを散歩するように心がけています。時々近所の喫茶店に出かけています。また、家族に協力を得て外食に出かけることもあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の能力に応じて、お小遣い程度の金額を持っていただいたり、家族よりお金を預っており、いつでも使えるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	いつでも電話できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	配慮しており、生活感や季節感を感じていただけるようにしている	アーチ型の建物になっており、光を多く取り入れることができ、明るく開放的な共有空間になっています。リビングに置かれた椅子やソファに座り、利用者は思い思いにゆっくりとした時間を過ぎすことができます。リビングから見えるベランダには、利用者が手入れをしているプランターの季節の野菜や花を眺めることができます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダや窓際に椅子を置き、思い思いに過ごせるようにしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使用されていたものを持ち込んでもらえるようにしている	ベッド・冷暖房・カーテンはホームの備え付けで、畳部屋とフローリングの居室があります。入居時には家族と相談し、大切にしていた日本人形・使い慣れたドレッサー・裁縫道具等を持ち込み居心地よく過ごせる工夫ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人一人に合わせて役割を持っていたり、声かけにて自分で出来ることはしていただき自立した生活が送れるようにしている</p>		